

健康ぷらざ

No.211

企画:日本医師会

20歳になったら 子宮がん検診を

子宮頸がん(子宮の入り口にできるがん)になる女性は

60歳以上では年々減少してきましたが、

40歳以下では逆に増加し、25〜34歳ではすべてのがんの中で

第1位(35〜54歳でも乳がんが続いて第2位)になっています。(注)

性感染症であるパピローマウイルス感染の増加が

理由のひとつとされています。

そこで、最近、多くの地域で

20歳からの子宮がん検診(子宮頸がん検診)を勧めています。

自覚症状が出る前に検診で発見され、

初期で治療すれば妊娠・出産もできます。

20歳になったら定期的に

子宮がん検診を受けることをお勧めします。



(注) 厚生労働省がん助成金「地域がん登録」研究班調べ

指導・筑波大学大学院人間総合科学研究科婦人周産期医学教授 吉川 裕之

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。